

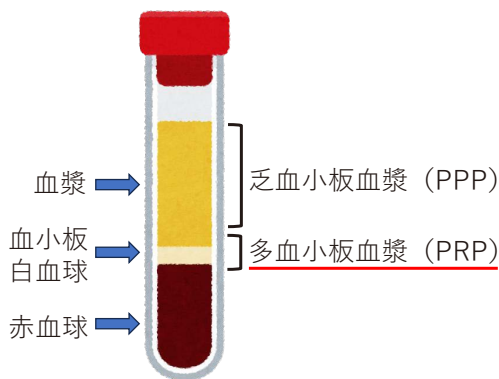
## 多血小板血漿 (PRP) を使用した治療について

門別診療所 富里 美緒

2024年4月に入社しました富里美緒と申します。まだまだ勉強中の身ではありますが、よろしくお願いいたします。

入社してから瞬く間に時が流れ、半年が過ぎました。この間に色々な症例や治療方法について勉強させていただき、中でも多血小板血漿 (PRP) を使用した治療が非常に面白いと感じたので、今回はそのお話をしたいと思います。

まず、PRPとは血液を遠心分離し、赤血球や液体成分をできるだけ除いて得られる血小板濃度の高い血液のことを指します。



血小板には止血機能以外にも、組織修復を助ける機能があり、PRP療法はこの機能を利用して治療を促進する治療法です。人医療において1990年代から行われ始め、現在では犬・猫、牛、そして馬の獣医療にも広がっています。馬でよく行われる方法としては、採血を行い、血小板を濃縮した後に凍結・融解などを行って血小板を物理的に破壊し、中の物質を放出させて使用します。治療を受ける馬自身の血液を使用していることから比較的安全性が高く、他の再生医療に比べて作製が簡単なため、臨床現場でも使用しやすい治療法です。

馬の分野においてPRPの効果は使用目的によって賛否両論ありますが、屈腱炎などの腱・靭帯の損傷や筋肉の損傷に対して使用し、効果が確認された報告もいくつかあります。この治療では腱や靭帯などの損傷のある部分に直接PRPを1回注入し、腱や靭帯の再生を促進することを目的としています。PRPを注入しても長い休養期間が必要なものに変わりはありませんが、腱や靭帯などの修復にかかる時間が短く、元の状態により近い形で再生すると言われており、休養のみに比べると再発防止やパフォーマンスの向上が期待できます。

また、最近では角膜損傷や角膜穿孔などの目の傷にも使用され始めています。実験室の中での話になりますが、馬の目から採取した角膜の細胞をPRPと共に培養すると非常に早く細胞が増えるという報告がされています。このことから重症度の高い目の疾患に対してPRPを使用している先生方も当組合にいらっしゃいます。この治療は目薬と同様にPRPを点眼することで治療ができるので、重症例で行われるような結膜フラップメントや持続点眼装置の留置などの大がかりな処置の前に実施できるのが利点です。

今回紹介させていただいたPRP療法はまだまだ発展途上な分野ではありますが、不治の病と言われる屈腱炎や目の疾患など、競走馬生命に関わる病気の治療として非常に期待されている治療法と感じます。さらに今回ご紹介できませんでしたが、傷の治療にPRPが使用されることもあり、様々な病気に応用されています。今後治療等で質問などありましたらお近くの獣医師にご相談ください。